

応用編

1 環境タイプ指針

市街地・まちなみ

概況

市街地・まちなみ地域では、行政施設を始め、多様な公共建築物が立地する。この地域では、建築物の規模に対して比較的敷地規模が小さいものが多く、まちなみにゆとりを演出するのが難しい場合が多い。

また、この地域は景観形成の乱雑な旧市街地や新しい計画的市街地など多様な特徴を持っている。

これらの地域の中でも、主に中心市街地の景観、メインストリート等の沿道景観については、観光客を始め沖縄を訪れる人々に地域イメージとして認識されることが多く、十分な配慮が必要である。



視点

- 県都那覇市の中心市街地、主要幹線道路沿いは、いわば県の顔ともなるべき地域であり、基調色やスカイラインの調和、オープンスペースの確保等、十分な配慮が必要である。
- 中心市街地では、モノレール建設事業等、様々な開発事業の将来計画を踏まえて、まちなみの変化に対応できる景観計画を行う。
- 旧市街地では、景観形成の方針が明確でない地域が多いため、地域の歴史や現状を踏まえて、ゆとり空間や緑地の創出によって、乱雑な景観をまとまりあるものに変える方向へ誘導する。
- 新市街地では、埋立事業や区画整理事業等の計画段階からの景観形成の方針を踏まえるとともに、人工造成地の欠点や緑量不足を補う配慮が重要である。
- 住宅地区においては、日常性の景観に溶け込むとともに、ゆとりを感じさせるような配慮が必要である。
- 地区計画、建築協定等の秩序づくりが推進されている地区では、住民の景観形成意識が高いため、地域の景観形成の拠点として先導的役割を担う必要がある。

●環境への配慮●

- ①市街地・まちなみ景観との調和を図り、歩行者空間の確保やゆとりを演出し、地域に密着した施設づくりに貢献するよう心がける。
- ②沿道と敷地、建物とがバランスよくつながり、沿道の景観になじむよう考慮する。
- ③敷地や建物、周囲の景観と調和した緑地を設けることにより、地域のアメニティに貢献する。



① 道路幅に対して建物が境界より後退し、周辺環境にゆとりを与えている。
(宜野湾市役所、宜野湾市)



① 道路境界から建物を後退させ、植栽空間を設けることにより、快適な歩行空間を創出している。
(北部合同庁舎、名護市)



② 敷地回りの擁壁が閉ざされた感じがなく、沿道の景観となじんでいる。
(西崎養護学校、糸満市)



② 建物が低く横に広がることにより、前面道路に対する威圧感を和らげている。
(宜野湾消防署、宜野湾市)



③ 周辺の建物との規模や建築デザインに配慮し、調和のとれた景観となっている。
(八重山博物館、石垣市)



③ 沿道の並木と自然につながる緑地と建築物の形態が、すっきりとした空間をつくっている。
(那覇地方裁判所、那覇市)

●環境への配慮●

- ④施設の立地する地区の景観特性に応じて、ランドマークとなる施設づくりを工夫する。
- ⑤地区計画や建築協定等により、一定の秩序・調和のとれた集合景観としてのまちなみを維持する配慮を行う。
- ⑥夜間照明（屋外照明）については、演出、安全性、利便性を考慮し、過剰な光力は避ける。



④ 那覇市の中心市街地において、ランドマークとしての特徴を際立たせている。
(沖縄県議会棟、那覇市)



④ 丸みを帯びた時計台が地区のランドマークとなっている。
(前原高校、具志川市)



⑤ 建築協定により、緑道、沿道緑化が維持され、まとまりある景観として際立っている。
(美浜ハイツⅡ、北谷町)



⑤ 地区計画により誘導される地域の景観形成拠点となっている。
(那覇市総合福祉センター、那覇市)



⑥ 中心市街地に位置し、夜間のまちなみ景観に配慮して、夜間照明に工夫が感じられる。
(パレット久茂地、那覇市)



⑥ 旅客ターミナル港として、海からの眺めを意識したものとなっている。
(泊埠頭ターミナル、那覇市)

●デザインの配慮●

- ①敷地と歩道を柔らかくつなぐ外構の形態・境界線の修景緑化により、沿道緑化との連携を工夫する。
- ②沿道景観形成を図るべき地域では、周辺建築物のスカイライン、色彩等の調和が重視される。
- ③建築物の密集する市街地では、周辺のまちなみに違和感のない配置、形態とする。



- ① 通り抜け可能なアプローチ道路は、緩やかな曲線や変化をつけた低い植栽や盛土により、ソフトな外構として地域へ潤いをもたらす場所となっている。（宜野湾市民図書館、宜野湾市）



- ① 空地として広がりのある地区にあって、沿道緑化と連続した木陰をつくる樹木の工夫をしている。（名護市立体育館、名護市）



- ② 中央部に高い棟を置き、両裾に低い棟を配置する形態をとることで、周辺建物との連続性を保ち、地域になじんだ景観をつくっている。（県営赤嶺市街地住宅、那覇市）



- ② 隣接する建物との輪郭を合わせ、また正面壁面のやわらかな色使いが沿道景観になじんでいる。（首里公民館、那覇市）



- ③ 数棟の建物群で構成する景観が周辺のまちなみと調和している。（壺川東市宮団地、那覇市）



- ③ 周辺建築物の高さに配慮をし、周辺のスカイラインとの調和を保っている。（小禄南公民館、那覇市）

● デザインの配慮 ●

- ④ 前面道路との距離を適度に保ち、オープンスペースや緑地空間を十分設け、威圧感や圧迫感を軽減するデザインを心がける。
- ⑤ 様々な利用者に親しまれるデザインにより、明るい施設づくりを目指す。
- ⑥ 沿道から施設へのアプローチ及び正面性に配慮したデザインを工夫する。



④ 中心市街地でオープンスペースを設けることにより、開放性のある景観を創出している。
(浦添郵便局、浦添市)



④ 丸みを帯びたデザインと調和した緑地空間が、周辺市街地において優しい印象を与えている。
(宜野湾小学校、宜野湾市)



⑤ すっきりとした建物の輪郭とアプローチの線化で利用者に親しまれている。
(浦添市民会館、浦添市)



⑤ シンプルで大胆なデザインにより、また遠景からも眺められる配色により、親しみが感じられる。
(那覇中央郵便局、那覇市)



⑥ 沿道からのセットバック、正面に対しての象徴性等デザインの工夫がなされている。
(具志川市役所、具志川市)



⑥ 沿道からのアプローチに対して、明確な正面性が工夫されている。
(嘉手納消防署、嘉手納町)

郊 外

概 況

郊外地域では、市街地の拡大による施設整備が急速に進んでおり、自然地や耕作地の開発により大規模な敷地を持つ公共施設の進出が多く見受けられる。

特に住居系公共施設は、今後も増えることが予想されるため、環境への配慮が重要になってくる。

この地域の特性として、敷地周辺は、自然地や未利用地、耕作地となっていることが多い。したがって、それら周辺の「土地利用・環境とのつながり」や「市街地周辺に残る自然環境の維持保全」に配慮することが重要である。



視 点

- 郊外での景観形成は、主として広がりのある視界の中で、背後地としての田園風景、山の稜線、海岸線等の自然景観をいかに生かしていくかということに配慮する必要がある。
- 市街地の拡大により環境への影響が懸念される地区では、オープンスペースや緑地により敷地内のゆとりを確保し、自然景観への視界が可能となるよう配慮する。
- 幹線道路沿線では、沿道景観との調和に配慮するとともに、背後地の自然景観に馴染む施設づくりが望まれる。
- 風致地区、自然公園等、自然緑地の残る地区では、緑地保全と視界確保に配慮する。
- 宮古・八重山地域及びその他離島の個性ある郊外の自然景観を生かす工夫をする。

●環境への配慮●

- ①自然環境が残る地域においては、田園的な景観に調和した施設とする配慮を行う。
- ②地域の土地利用、土地の形状に対応したまとまりのある景観を誘導する施設づくりに配慮する。



① 周辺の自然地に合わせ、敷地内に豊富な植栽を施している。
(県立南部病院、糸満市)



① 背景の緑地に比べ建物の高さを低く抑え、地域の景観になじんでいる。
(県工芸指導所、南風原町)



② 建物の位置まで丘陵地を残し、周辺の自然景観に配慮している。
(浦添消防署、浦添市)



② みどり豊かな立地環境にあって、地形と調和した配置により周辺景観への配慮がなされている。
(翔南小学校、南風原町)

●環境への配慮●

- ③隣接する建物等が少なく、周囲から眺められる独立性の高い環境に立地する場合、デザインの質を高める配慮が必要となる。
- ④周辺地区の建築物に対して、ボリュームの大きな建築物となる場合は、空地の確保、緑地の整備、形態の工夫等により、威圧感の軽減に努める。



③ サトウキビ畑の風景の中にあり、象徴性をもちつつ違和感を与えないデザインとなっている。
(佐敷町シュガーホール、佐敷町)



③ やわらかな屋根意匠や壁面表情で郊外の地域景観になじんでいる。
(豊見城警察署、豊見城村)



④ 周辺スケールに見合ったボリュームで地域に溶けこんでいる。
(北谷町北前公民館、北谷町)



④ 沿道からは大きな広場空間が前面に位置し、圧迫感が軽減されている。
(沖縄市農民研修センター、沖縄市)

●デザインの配慮●

- ① 周辺の地形的変化や緑のボリューム、空間的広がり等、立地する環境に映える独立性を持ったデザインの工夫を行う。
- ② 田園風景を背景とした丘陵や河川、耕作地等のまとまりのある景観と一体となった建物シルエット、配色、屋根、壁面等のバランスあるデザインの配慮が必要となる。



- ① 石灰岩の塀と建物を一体的に構成して、田園風景との調和と施設の独自性の表現が景観を豊かにしている。
(平良市立博物館、平良市)



- ① 後背地及び周辺の緑に対して輪郭をなじませながら、赤瓦屋根の採用により周辺環境に映える建築物となっている。
(浦西中学校、浦添市)



- ② 周囲の耕作地と建物のボリューム、赤瓦屋根の印象がよく調和している
(豊見城中央図書館、豊見城村)



- ② 郊外の田園的風景になじんだ形態と開放的な外構が景観に好影響を与えている。
(宮古厚生園、平良市)

● デザインの配慮 ●

- ③ 拡大する市街地に隣接する地区においては、位置や形態、建物の色使い等に配慮した、地区の中核施設としてのデザインが望まれる。
- ④ 地域に根ざし、親しまれる落ち着いたデザインの工夫を行う。



③ 印象的な外観が、まちなみのランドマークとなっている。
(浦添市ハーモニーセンター、浦添市)



③ 高さを抑え、分棟化することにより、圧迫感の軽減が図られ、またやわらかな色使いが行われている。
(県営西里団地、平良市)



④ 分棟、赤瓦屋根を用いることにより、親しみある、地域に根ざした工夫がなされている。
(宮古空港新ターミナルビル、平良市)



④ 沿道に面した生け垣越しに眺める赤瓦屋根の建物として、親近感がわいてくるデザインとなっている。
(県立公文書館、南風原町)

集 落

概 況

集落域は海浜やクサティ森、抱護林等に守られて、人々のコミュニティが根づいており、伝統行事や祭り等が日常的に継承されている。

また、この地域においては、農林漁業従事者が多く、生活の面においては集落の生活習慣や地域のスケール感を大切にしているため、調和のとれない施設や閉鎖的な施設があると違和感がでる。集落のコミュニティを損なわないよう、または再生していくよう集落の社会環境に応じた整備をするほか、周りの田園環境になじむよう修景緑化を強化することが大切である。



視 点

- 集落内の家屋との調和を図り、集落の形態を充分念頭に入れた規模、配置等を前提とした施設づくりが必要となる。
- 集落内外の景観資源となる屋敷林や並木、生垣等の緑地空間と連結する修景緑化の手法を積極的に取り入れる工夫が必要である。
- 集落と背景となる自然環境とのまとまりのある景観の形成を図り、公共建築物が地域の景観資源として馴染み、潤いある施設づくりが望まれる。
- 地域コミュニティ形成の場として交流を促進し、日常の地域活動での利便性を高める公共空間を確保し、快適でゆとりのある施設とするための修景への配慮が求められる。
- 竹富島の集落景観は、伝統的建造物群保存地区に指定されており、この地区においては貴重な景観特性を保全するとともに、空間的な連続性を向上させる配慮が必要である。

● 環境への配慮 ●

- ① 集落と周辺の自然環境がつくる、親しみやすい景観を継承する視点に立った施設整備を考慮する。
- ② 日常の暮らしの中で違和感のない生活環境になじんだ施設づくりに配慮する。
- ③ 遠景や俯瞰からの眺めにも充分考慮した施設の配置、郷土木を活用した緑化の工夫等が必要である。



① 集落の生活習慣やスケールになじみ、背景となる山地への見通しも確保されている。
(宜野座村役場、宜野座村)



① 庁舎横に湧水を利用した小公園を設け、地域性の工夫が感じられる。
(玉城村役場、玉城村)



② ゆったりと構えた形態は周辺の豊かな自然景観になじんだスケールになっている。
(西原南小学校、西原町)



② 集落のスケールと違和感がなく、建物の形態についても周辺景観になじんでいる。
(宜野座村立保育園、宜野座村)



③ 隣接地の前面道路に対して、建物をスケールダウンする工夫がなされている。
(読谷村総合福祉センター 読谷村)



③ シンボルツリーは、周囲の景観を高める役割を担っている。
(今帰仁村役場 今帰仁村)

● デザインの配慮 ●

- ① 集落のなりたちの背景から読みとれる地域特性を生かして、施設のデザインに反映させる。
- ② 景観資源である周辺の屋敷林、生垣及び並木等と連続する柔らかな境界を造る外構・緑化の工夫を行う。
- ③ 集落の共有空間としてのオープンスペース確保は、地域の活動拠点として活用できるよう、住民の声を十分配慮したデザインを心がける。



- ① 田園的風景の中に位置する施設であるが方形の屋根が周辺の緑地景観を引き締めていて、施設の存在を明確にしている。
(読谷村伝統工芸センター、読谷村)



- ① 低く構えた形態と赤瓦屋根で周辺住宅とのバランスが保たれている。
(今帰仁村歴史文化センター、今帰仁村)



- ② 低く抑えた緑や花木が周辺の石垣や屋敷林とつながる連続的な景観をつくっている。
(竹富小中学校、竹富町)



- ② 周辺の屋敷林と連続して、正面に花木を植えることにより、やわらかな正面性が演出されている。
(都屋の里、読谷村)



- ③ 建物前面にオープンスペースが確保され、地域住民が利用しやすい形態となっている。
(今帰仁村立中央公民館、今帰仁村)



- ③ 前面のオープンスペースと屋敷林が、施設の印象と通りの景観に和やかさを与えている。
(中城村立幼稚園、中城村)

山地・丘陵

概 況

本県の山地・丘陵は、本島北部や八重山に代表されるように、亜熱帯の豊かな自然を育んでおり、特徴的な景観を有している。

また、「風水」では龍脈の流れる所と伝えられ、集落周辺ではクサティ森や、御獄林といった地域のシンボルとして大切にされてきた場所でもある。

これまで、公共建築物では山地・丘陵地域への大規模施設の立地は比較的少なかったが、ややもすると山の稜線を遮断したり、大規模な地形の改変を行ったりということが考えられるため、今後は、これらの自然景観の保全に慎重な配慮を行う必要がある。



視 点

- 斜面地においては、大規模な地形の改変は避け、地形を生かす土地利用に配慮する。
- 丘陵地と稜線が織りなす田園的風景を形成している地区では、望遠的な視界で捉えた景観に考慮して、低層・低密な施設が自然風景と調和するよう配慮する。
- 山地・丘陵地の緑の広がりや施設緑地の相乗的な作用で、周辺環境との調和と景観向上効果を高める工夫が望まれる。

●環境への配慮●

- ① 主な視点場から出来るだけ全体のシルエットが単独で見えない工夫など、施設が必要以上に目立つのではなく、自然と融合する施設づくりを心がける。
- ② 山地の地形を遮断する稜線上での施設配置は避ける。
- ③ 施設に付属する工作物や駐車場等は、できるだけ緑地で修景するよう配慮する。



① 山中にあって、稜線より低く、自然の緑に隠れるような位置とし、自然景観への影響を抑えている。(石川市少年自然の家、石川市)



① 建物を分棟化し、低く抑えることにより、主な視点場からの見え方への配慮がなされている。(糸満青年の家、糸満市)



② 背景の山並みを損なわないような低層とし、植栽によって自然景観とのつながりに配慮している。(石垣少年自然の家、石垣市)



② 背景の丘陵地に合わせた適度な建物の配置構成が、スカイラインを活かしている。(名桜大学 名護市)



③ 丘陵地に位置し、周辺自然緑地になじんだ建物、駐車場の配置と緑化を行っている。(糸満市立中央図書館、糸満市)



③ 建物前面に位置する駐車場をガジュマルで遮へいし、目立たせないような工夫がなされている。(宮古少年自然の家、平良市)

●デザインの配慮●

- ①背景の緑の流れる線形を意識した屋根勾配、壁面構成、色彩の配慮が重要となる。
- ②山地・丘陵中腹や裾野付近では移動する視点場からの眺めを考慮して施設の配置や形態を考慮する。
- ③他の地域に比べ、緑の相対的なボリュームから受ける影響度が大きいいため、背景との調和や見通しの確保に努める。
- ④立地する敷地の形状や周辺の地形の連続性を確保し、建物と周辺の景観の調和に配慮する。



① 背後の岩壁の丘陵地との連続性を意識した高さ、色彩で建物正面を工夫している。
(具志川市立総合体育館 具志川市)



② 丘陵斜面地中腹に位置し、道路から見る視点の中で中層分棟構成の勾配屋根が海への展望を生かしていて、田園的な風景と調和している。
(県宮中城団地、中城村)



③ 山の中腹に位置し、遠景における見通しを確保するとともに、自然景観になじむ形態となっている。
(名桜大学、名護市)



④ 山地の地形を有効に活用して、後背地にかかえる豊かな自然景観と調和している。
(名護青年の家、名護市)